The Japanese Association of Special Education

VTRで授業分析した結果、教師と児童の間に、働きかけ→積極的受け入れ、自発的行動→受容の関係が必要であり、教師と児童との相互関係を高めることの必要性を再確認した報告であった。

1110は、東京都の、障害児の学校教育における「性教育」の実態調査の中間報告であった。指導内容では、生理、清潔、性被害などはよくとりあげられるが、マスターベーションや男女交際については積極的にとりあげられていない状況が報告された。

1111は、大阪の一精神薄弱養護学校での小学部の小規模化傾向の諸問題を解決する方法として、就学指導の積極的なとりくみが養護学校の教育内容を充実させ、養護学校のメリットである小・中・高一貫教育を追究していくことになるとの報告がされた。

1112は、沖縄県宣野湾市における発達障害児の治療教育を、大学生のボランティアグループを中心に週2回、3年半にわたる活動の報告であった。

1113は、大津市で、障害児の発達保障の基本的諸制度が確立した1974年生まれの子どもたちの義務教育終了時期にあたっての追跡調査であり、特に就学前と就学後の変化の様子が詳しく報告された。

1114は、特殊学級での一年契約講師への特殊教育のための養成プログラムで、明快で実際的なユニークなとりくみが報告された。

1115は、発達の遅れを有する弟との生活を通して、一人の障害児のライフサイクルの視点から学校教育の限界や問題点を指摘し、家庭、地域、学校との連携の大切さが報告された。

この分科会は、様々な分野から実践の報告や調査が報告され、討議の柱を立てて十分に討議するに至らず、報告に対するわずかな質疑応答があっただけであった。

障害児一般　III　　教育史・その他

座長　清水　寛・茂木俊彦

1116　情動の教育と良寛(1)
—障害児教育における意義—
徳島県立徳島工業高等学校○清重　貽一
鳴門教育大学　中塚善次郎

1117　第二次世界大戦下の全国の障害児学校の戦争被害の実態
埼玉大学　清水　寛

1118　岡山県における戦前の障害者処遇
—社会事業雑誌「連帯時報」を中心に—
就実短期大学　迫　ゆかり

1119　茨城県における戦後初期（1950年前後）不就学児・者問題
茨城県立友部養護学校　船橋　秀彦

1120　初代光明学校長　結城捨次郎
—(2)教科過程編成に見る特徴—
蘇生会総合病院　杉浦　守邦

1121　日本における心身障害者体育の史的研究（第18報）
—小学校令時代の休暇集落における虚弱児体育について—
北陸大学　北野　与一

1122　戦前の「精神薄弱」教育における国語教育について（その3）
—東京市補助学級「国語科指導要目」の検討—
岩見沢高等養護学校○髙村　法保
筑波大学　津曲　裕次

1123　わが国における「精神薄弱」概念の歴史的研究V
—戦後の「精神薄弱」概念研究の動向と課題—
日本福祉大学○髙橋　智
長崎大学　平田　勝政
東京都立大学　茂木　俊彦

1124　中国精神薄弱教育の動向（その2）
鹿児島経済大学　原本　昭夫

1125　ヴィゴツキーの人格論について
東京学芸大学　渡辺　健治

討　論

1116は、ワロンの発達理論のとくに情動機能の概念を手がかりに、障害児教育において情動を育てる教育の意義を強調し、良寛と子どもたちとのかかわりの中にその一つの姿を見出そうとした。1117は、戦時中に設置されていた132の障害児学校を対象に戦争被害について質問紙法による調査を実施し、空襲による被害、疎開、勤労奉仕・学徒動員、軍事教練、出征・戦死、戦後の復興過程等について明らかにした。1118は、岡山県における戦前の障害者処遇の実態と動向について、社会事業雑誌『連帯時報』を通覧し、関連論文・記事を障害者全般、盲聾者、精神薄弱者、病・虚弱児に分けて整理・検討した上で、盲聾者団体による民間運動等に特色がみられること等を指摘した。1119は、地域教育史研究の観点から、1950年前後の茨城県での不就学問題の現われ方とそれに対する県教育行政の対応について、『学校基本調査報告書』や『茨城教育時報』の統計的資料等をもとに分析した結果を報告した。1120は、都立光明養護学校の前身である光明学校の初代校長・結城捨次郎研究の一環として、光明学校初期

NII-Electronic Library Service

The Japanese Association of Special Education

の教科過程編成の特色を生活科と適性指導の特設に求め、その背景に結城の前任校である成城小学校の「個性尊重の教育」等の理念や当時の文部省の教育方針が作用していること等を明らかにした。1121は、日本の心身障害者体育の歴史にかんする一連の研究の一つで、大正末期から昭和初期にかけて増加し始めた虚弱児童対象の休暇集落の体育的実態とその特質について検討し、栄養・休養・運動が自然環境に即して三位一体の形で統制的に、しかし運営面では弾力性をもって実施されていたこと等を指摘した。1122は、戦前の精神薄弱児教育における国語教育の実際について明らかにするために、東京市補助学級調査委員会が作成した「国語科指導要目」(1938年東京市役所発行)を分析し、基礎的な教科の学力保障、実用性や生活経験中心の教材観、社会への自立等にその特徴があることを指摘した。1123は、教育学、医学、心理学、社会福祉、教育・福祉実践の各分野における「精神薄弱」概念の変遷とそれらの分野相互の概念形成の連関性と独自性の解明をめざす一連の研究の一つで、戦後について161件の関連論文・資料を対象に、「精神薄弱」概念全般にわたる議論・研究の変遷を'60年代、'70年代、'80年代の3期に分けて分析し、各分野ごとのそれについても論及した。1124は、中国の精神薄弱児教育の現状について、教育制度、学校・学級数と生徒数の推移、教育内容・方法等の面から概括し、当面している問題として、教育年限の少さや就学率の低さ、教員養成の立ち遅れ、障害の重度化等に対応する指導法の必要を提起した。1125は、ヴィゴツキーの障害児教育論における人格概念の位置と背景を明らかにするために、彼がシュテルン、アドラー、レヴィン等の人格論をどのように批判し、また一面では基礎として、補償理論を定式化し人格の発達の問題の中に位置づけようとしたかについて論及したが、今日の人格論との関連については今後の課題とした。

次に、質疑と全体討論について重点的に記す。1117には、障害児教育における戦争被害のとらえ方について特に留意すべきことはとの質問があり、今後はさらに障害児の内面に及ぼした被害の実態や地域による差異の解明が必要との答えがなされた。1119には、発表で補足した特別学級成立の要因の一つに当時のコア・カリキュラムの思潮を挙げたことに疑問が出されたが、基礎学力を重視した型では学力差への対応を契機として成立した事例があるとの説明がなされた。1121には、休暇集落の活動に医師はタッチしていたかとの質問があり、全てにおいてそれがみられたとの答えがあった。1122には、国家主義教育の影響や一般の国語教育との関連についての質問があり、前者については「修身書」にそれがみられること、後者については強くはみられないとの答えがあった。1124には、中国が精神薄弱児教育のモデルとして位置づけている国があるとすればどこかとの質問があり、アメリカおよび日本であろうと答えた。1125には、思考と情動のそれぞれの発達段階は互いに対応しているとのヴィゴツキーの考え方はやや機械論的ではないか、また彼の「障害」理解は楽観的に過ぎないかとの意見が出され、発表者は前者については、今日の研究者の中には意識の発達において認識の系と感情の系とを対応させて統一的に把握していこうとする傾向もみられること、また後者については、ヴィゴツキーは「障害」と「補償」の関係をかなり厳密にとらえようとしていることを挙げ、それぞれの見解に対して反論した。

障害児一般 Ⅳ　教育・調査・その他

座長　稲富眞彦・高山忠雄

1126　1988年度高等部単置養護学校、及び大規模養護学校高等部に関する全国教育実態調査(1)
—「精神薄弱」養護学校を対象に；①調査の方法、入学者の選抜方法—
高知大学○稲富　眞彦
〃　作見　弘子
〃　塩出　里美
〃　渡辺　育子

1127　1988年度高等部単置養護学校、及び大規模養護学校高等部に関する全国教育実態調査(2)
—「精神薄弱」養護学校を対象に；②用いられている発達・知能検査、発達、障害—
高知大学　稲富　眞彦
〃　○作見　弘子
〃　塩出　里美
〃　渡辺　育子

1128　1988年度高等部単置養護学校、及び大規模養護学校高等部に関する全国教育実態調査(3)
—「精神薄弱」養護学校を対象に；③教育課程、学級規模及び教員免許の取得状況—
高知大学　稲富　眞彦
〃　作見　弘子
〃　○塩出　里美
〃　渡辺　育子

1129　精神薄弱者授産施設と小規模作業所における労働と通所者の実態及び問題点

NII-Electronic Library Service